

渋沢栄一記念館だより

No.1

◆渋沢栄一記念館だよりの発刊について

渋沢栄一記念館は、渋沢栄一に関する資料を収集、保管及び展示し、市民の教養及び文化の振興に寄与するために設置されました。「渋沢栄一記念館だより」は、渋沢栄一顕彰の一環として当館の取組を発信するために年1回程度発行して参ります。

◆令和5年度をふりかえる

○企画展

【書画から見よう栄一と惇忠（県立歴史と民俗の博物館共催）】

開催期間：令和5年4月26日(水)～5月28日(日) 前期
5月31日(水)～6月25日(日) 後期

埼玉県立歴史と民俗の博物館と渋沢栄一記念館の収蔵する書画資料を通して、渋沢栄一と尾高惇忠の人となりや交流関係などを紹介しました。

前期と後期で一部展示資料を入替し、富岡製糸場初代場長としての姿が描かれた「尾高藍香先生之肖像」や、秩父セメント会社の第2代社長大友幸助に宛てて栄一が揮毫した書「順理則裕」をはじめ22点の資料を展示しました。また、関連事業として講演会「栄一と惇忠をめぐる美術」や展示解説などを行いました。



尾高藍香先生之肖像

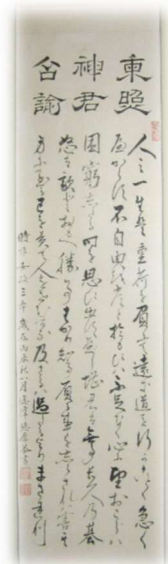
【収蔵品展】

開催期間：令和5年6月27日(火)～令和5年9月27日(水)

これまでに収蔵した資料のうち企画展ではなかなか紹介することが叶わなかった資料を中心に、渋沢栄一や、栄一と関わりの深い郷土の人々を紹介しました。大河ドラマ「どうする家康」に関連して、家康公の御遺訓と伝わる言葉を栄一の伯父誠室が認めた書や、主屋の完成を祝って明治31年に穂積陳重と阪谷芳郎が「中の家」へ贈った川端玉章「雄略皇后親蚕之図」などを展示しました。



「雄略皇后親蚕之図」

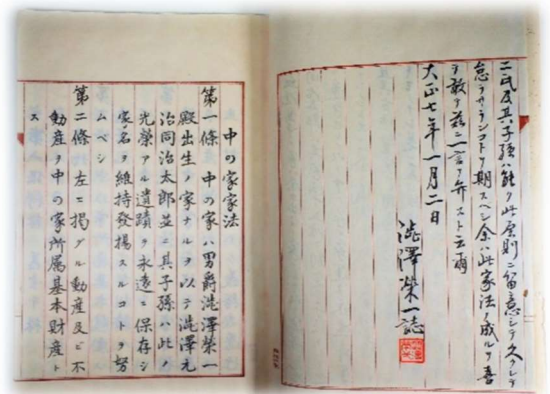


東照神君召諭
(渋沢誠室筆)

【「中の家」主屋と渋沢家の人々】

開催期間：令和5年9月29日(金)～令和6年1月24日(水)

旧渋沢邸「中の家」主屋の耐震改修工事が完了し、リニューアルオープンとなったことに伴い、主屋が明治28年に建てられた前後の事情や、渋沢家の人々を、当館所蔵資料を通して紹介しました。渋沢元治と治太郎の兄弟により、「中の家」を末永く保存していくために制定された「中の家家法」や、「中の家」が火災に遭ったのちに栄一が妹婿の市郎に宛てた書簡など12点の資料を展示しました。



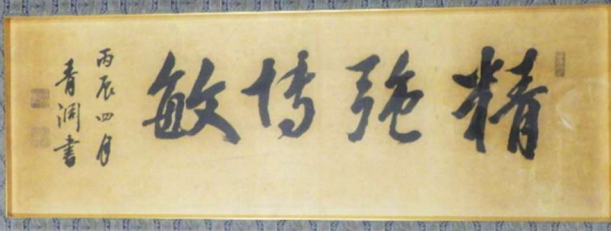
「中の家家法」

【渋沢栄一と書】

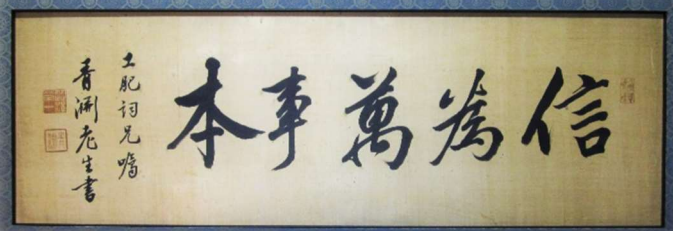
開催期間：令和6年1月26日(金)～令和6年6月9日(日)予定

※3月11日(月・休館日)と4月下旬に作品の一部入替予定

書は多忙な栄一の数少ない趣味の一つでした。実業界から社会公共事業まで、幅広い交友関係を築いた栄一は、多くの人から求められて揮毫しています。その内容は主に、中国古典や自作の漢詩でしたが、残された作品からは、求められた場面や相手のことを考えながら揮毫に臨んだ栄一の姿がうかがわれます。少年期の栄一に書を教えた伯父渋沢誠室のものと伝わる「御手本」や、「精強博敏」「信為萬事本(信を萬事の本と為す)」といった栄一の書など計14点を、資料保存の観点から適宜入替ながら展示しました。



「精強博敏」



「信為萬事本」

○旧渋沢邸「中の家」主屋リニューアルオープン

構造補強及び改修工事を経て、旧渋沢邸「中の家」主屋が令和5年8月10日リニューアルオープンとなりました。展示整備により「中の家」の人々を紹介する展示や、80歳代の渋沢栄一が映像とともにふるさとなどの思い出を語りかける「渋沢栄一アンドロイド・シアター」、旧深谷大河ドラマ館展示資料、整備中に確認された煉瓦製カマド跡などが見学いただけます。また、帰郷した栄一滞在のために念入りに造られた上座敷を建築当初の趣のまま公開しています。栄一が過ごした空間を味わうことで、深谷の生んだ偉人をより身近に感じていただける施設になりました。今後は、工事報告書の完成にともない工事の概要を分かりやすく紹介する展示などを実施していく予定です。



旧渋沢邸「中の家」外観

○栄一塾

新紙幣の発行を前に、これまで40年にわたり一万円札の肖像をつとめ、バトンを栄一につなぐ福澤諭吉のことや、紙幣にまつわる歴史、また、渋沢栄一と紙幣・貨幣の関係などを、各分野の専門家を講師に迎えて学びました。また、希望する方を募ってのバスツアーでは、講演内容に沿った施設を中心に見学しました。

第1回「福澤諭吉と一万円札」（10月22日（日）開催）

都倉 武之 氏（福澤諭吉記念慶應義塾史展示館副館長）

第2回「渋沢栄一と紙幣・貨幣」（10月29日（日）開催）

桑原 功一 氏（渋沢史料館長）

第3回「お札のはなし」（12月2日（土）開催）

松村 記代子 氏（お札と切手の博物館学芸員）

バスツアー（12月13日（水）開催）

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館-精養軒東京文化会館店-お札と切手の博物館

○深谷市「論語の里ガイド」アプリリニューアル

当館公式アプリとして関連施設のみどころやおすすめコースを紹介するものとして令和4年度から稼働しておりましたが、新紙幣が発行される7月3日までのカウントダウン表示、渋沢栄一が語った、現代を生きる私たちの心に響く言葉を毎日一言紹介する「渋沢栄一 今日の一言」、AR（拡張現実）で表示される渋沢栄一と写真撮影ができる「渋沢栄一AR」といった新機能を追加してリニューアルしました。



渋沢栄一 AR



「論語の里ガイド」アプリ

○スタンプラリー

点在する渋沢栄一関連のスポットを巡ってスタンプを集めた方に記念品を進呈する「～渋沢栄一ゆかりの地をめぐる～2023「論語の里」スタンプラリー」を開催しました。渋沢栄一の命日である11月11日を含む令和5年10月20日から12月25日の期間で、3,328人の方が参加し、うち1,832人が完走しました。

○資料の修復

渋沢栄一の書2点（「信為萬事本」「進徳工夫在日新」）を修復し、企画展「渋沢栄一と書」にて展示しました。また、清水良雄が描いた油絵「渋沢栄一肖像」の修復を実施しました。来年度の企画展などで紹介していく予定です。



「渋沢栄一肖像」



○ボランティアの会との協働事業

「渋沢栄一翁と論語の里」ボランティアの会は、市民有志によって結成された団体で、市民協働の趣旨にもとづき当館からの委託業務として、年間を通して尾高惇忠生家における「解説ガイド」をつとめ、渋沢栄一ゆかりの地を参加者とゆっくり歩きながら散策する「まち歩きツアー」、渋沢栄一の著書「論語と算盤」にちなみ論語に親しむ「論語教室」を開催しました。

◆令和6年度7月3日新紙幣発行

渋沢栄一が肖像として描かれる新一万円札が本年7月3日に発行となります。この記念すべき日に向け、当館としては、「記念企画展」や「スタンプラリー」、「前夜祭」を開催する予定です。深谷市としましても、新一万円札発行をたくさんの方とお祝いするため、ご賛同いただける企業・団体や個人の方々から「くす玉開き」の動画を募り、市の管理するHPでまとめて公開する「くす玉開き大作戦」やSNSや公共施設窓口等での「カウントダウン」を実施するなどして新一万円札の発行に向け機運を高めて参ります。

発行：令和6年3月31日 深谷市渋沢栄一記念館

〒366-0002 埼玉県深谷市下手計1204番地 電話：048-587-1100 FAX：048-587-1101

HP：「渋沢栄一デジタルミュージアム」http://www.city.fukaya.saitama.jp/shibusawa_eiichi/index.html

公式インスタグラム：eiichi0213_official 更新中！